

東北学院大学 チャペル ニュース

サマー・カレッジ、
秋季特別伝道礼拝
特 集 号

第90号 2004年11月
東北学院大学 宗教部
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
〒980-8511 (022) 264-6428

● 巻頭言 ●

「心によって」

宗教部長
佐々木 哲夫

数年前、東北学院同窓会の支部会に出席する機会が与えられました。その席上、シニアの同窓生の方が、昔、卒業時に記念として贈られた聖書の言葉「蛇のごとく聴く、鳩のごとく素直なれ」についての話をしました。

(サムエル上二六章七節)が響いてきました。

非常に感銘深い内容でしたので本紙において「：現役を引退された方が：」(巻頭言「七」号)と紹介させていただきました。しばらくの後、ご本人と再会する機会があり、そのおり、婉曲的表現ながら「私はまだ現役なのです」とのご指摘を受けました。あれは、長年の人生を回顧しての訓話ではなく、現役として活躍する秘訣としての話だったのです。恐縮する私の心に聖書の言葉「容姿や背の高さに目を向けるな：人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」

「主は心によって見る」は、神が預言者サムエルに語った言葉です。イスラエルの第二代目の王を選び出す使命を帯びたサムエルは、最初、エリアブという人物に目を留めます。そして、彼こそ王にふさわしい人物だと判断します。エリアブが、初代の王サウルのように背が高く、また、長子としての威厳を十分に漂わせていたからなのでしょう。彼こそ王としてふさわしいとサムエルが判断したその時、神の言葉「容姿や背の高さに目を向けるな。：人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」が臨みました。やがて、サムエルの前にダビデが現れます。その時、さらなる神の言葉「

「彼に油を注ぎなさい。これがその人だ」―が臨んだのです。では、預言者サムエルは、いったいダビデの何によって人物評価を行ったのでしょうか。聖書は、ダビデに関し次のように記述しています―「彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった」(サムエル上二六章二節)―。興味深いことに、否定的に扱われた人間の「目に映ること」とダビデの立派な「姿」という表現は、辞書では同義であると解説されています。それゆえ、ダビデに特徴的な要素は、うわべの形を意味する「目に映ること」姿」以上に、「血色が良く」や「目は美しく」だと判断されます。しかし、これらの要素とて、威武堂々とした王の姿を描写するのにはふさわしい要素だとは思われません。なぜなら、ダビデがペリシテ人の猛者ゴリアトと戦った時、敵はダビデを見て「ダビデが血色の良い、姿の美しい少年だったので侮った」(サムエル上二七章四二節)と記されているからです。



サマー・カレッジ集合写真

結論的にまとめると、
「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」との表現を、「人は目に見える外観によって人を判断するが、神は人の心のありかたによってその人の価値を判断する」と解説することができます。私の心に今度は新約聖書の言葉が響いてきました―「たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます」(二コリント四章一六節)―。確かに「人の内にある霊以外に、いったいだが、人のことを知るでしょうか」(一コリント二章一節)です。自分の本質を直視できる唯一の存在である自分自身の心を大切にしたいものです。

サマー・カレッジ講演要旨

十六世紀 聖書を母語で読み始めた時代 特にフランス語聖書についての解説

《各国の動きについて》



宗教部副部長
野村 信

聖書は、ローマ・カトリック教会が中世のヨーロッパ社会に根をおろしていく中で、聖ヒエロニムス(三四七〜四二〇年)の翻訳したラテン語聖書(ウルガータ)が聖典と定められ、他の言語に翻訳されることは、禁じられていました。しかし、十六世紀にはいると、各地に広がる宗教改革の波に乗って、聖書は本格的に、原文であるヘブライ語(旧約)とギリシャ語(新約)から母語(母国語)に翻訳する動きが始まったのです。聖書の一部分だけの翻訳は、すでにたくさん出回っていました。

ドイツでは、ルターが新約聖書をギリシャ語から一五五二年に出版し、その十二年後には、ヘブライ語から旧約聖書を完成させて、一五三四年にドイツ語の旧約・新約の全体聖書をウィッテンベルクで発行しました。スイスでは、チューリッヒに

て、ツヴィングリらが、ルターの

新約聖書と旧約聖書を用いつつ、まだ翻訳されていなかった旧約聖書の幾つかの書を翻訳して、これらを集めてドイツ語の「チューリッヒ聖書」として、ルターに先んじて、一五三一年に出版しました。

イギリスでは、すでにウィクリフが、一三八四年に死ぬ前にラテン語から英訳しましたが、これを弟子たちが編纂して一三九五ころまでには完成したのです。これは、たちまち焚書となり、ウィクリフは、すでに死んでいたにもかかわらず、異端と宣告されました。この運動は、さらにプラハの指導者であったヤン・フスの異端宣告へと向かいました。これらの記憶がまだ残っている中で、ルターのドイツ語聖書の出版は、ウィリアム・ティンダールに影響して、彼は、英訳で新約聖書を一五二六年に

出版しました。しかし、一五三五年に焚刑に処せられました。

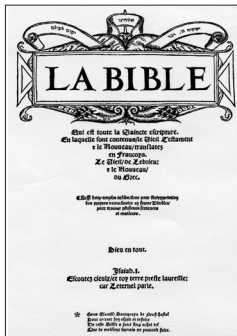
ルターのドイツ語聖書の出版は、近隣のゲルマン諸国の母語聖書の普及を促し、一五二四年にはデンマーク語訳が、一五二六年には一五三五年初版のオリヴェタン聖書の表紙。聖書の

イザヤ書より
我らの神の言葉は永久に立つ

聖書
全体について
旧約聖書と新約聖書の
フランス語訳
旧約聖書はヘブライ語より
新約聖書はギリシャ語から。

二つの欄外において、一つは、
固有名詞の解説。他は、種々の索引、
用法を参照するための索引

神は総ての中に
イザヤ書1章2節
諸々の天よ、聴け。汝、大地、耳を
傾けよ。なぜなら主が語られる



1535年初版のオリヴェタン聖書の表紙。聖書の言葉で飾っている

言葉で飾っているオランダ語訳が、二五年にはスウェーデン語訳が、さらに一五四〇年にアイスランド語訳など、次々と各地に広まりました。

フランスでは、デタプール(Jacques Lefevre d'Étaples)がラテン語からフランス語に翻訳し

て、新約聖書を一五二三年に出版し、続いて一五三〇年には旧約聖書を完成させました。しかし、宗教改革者・ジャン・カルヴァンのいとこであったオリヴェタンが一五三五年にフランス語で原語から旧約・新約聖書を出版し、これがフランス語による最初の原典からの聖書全体の翻訳となったのです。

●フランス語訳聖書について
カルヴァンより三才年上であったオリヴェタンは、Olivetanと書きますが、彼のあだ名は、オリヴェターヌス(Olivetanus)でした。「オリヴ油のランブ」という意味ですが、「真夜中のランブ」、すなわち、夜遅くまで勉強する勤勉家だったのです。(※ラテン語でオリヴ油は、olivumと書くのです。)

カルヴァンには、若い時から影響を与えていたらしいのです。ストラスプールでギリシャ語やヘブライ語を習得して、ジュネーヴなどで教師をしていましたが、ピエモン・アルプス(スイスとイタリアの国境沿いに広がるアルプス)にいた時、ここにいるワルドー派の人々がフランス語で聖書を出版することを決めて、ギョーム・ファレル(カルヴァン以前にいたジュネーヴの宗教改革者)に頼みました。

ファレルは、これをオリヴェタンに持ち掛けたのです。こうして、山中で、オリヴェタンは、二年ほどで旧約聖書と新約聖書を原文から訳して、一五三五年にヌーシャテルというジュネーヴの北にある町で出版しました。しかし、三年後、イタリアのローマで死にました。死因はわかりません。この後、オリヴェタンのフランス語聖書は改定され続けて、今もフランス語圏プロテスタントで使用されています。

ルターのドイツ語聖書が、ルカス・クラナハという画家によって描かれた美しい挿絵を百四十枚も入れた色彩豊かなものにしたのに対して、オリヴェタンのフランス語訳聖書は、一枚も色刷りの挿絵を入れませんでした。しかし、それは、聖書の言葉で聖書全体を飾ろうと意図したからなのです。ルターの主張した宗教改革の精神である「聖書のみ sola scriptura」は、さらにフランス語圏で徹底されていくことになったと言えます。

こうして、宗教改革期に母語へと翻訳されていく聖書は、各地の福音主義の思想を反映しながら、近代社会の成立を促しつつ、世界の母語聖書を産み出し、いくことになりました。

サマー・カレッジ講演要旨 2

「主の戦い」とは何か



キリスト教学科 北 博

サムエル記上一七章四七節でダビデは、あの大巨人ゴリアトとの一騎打ちを前に、「この戦いは主のものだ」と呼びます。旧約聖書には、「主の戦い」とか「神の戦い」といった表現が時々出て来ます。そこで、「主の戦い」の意味について、少し考えてみたいと思います。

旧約聖書では、神が戦士として描かれることがよくあります。例えば「葦の海の奇跡」の場面。出エジプト記一五章の「海の歌」でヤハウエは「いくさび」と呼ばれます(三節)。エジプトから脱出したイスラエルの民を、変心したファラオとその軍勢が追って来ます。前は海、後ろは大軍、まさに絶体絶命の状況で、モーセは民にこう言います。「主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい」(出一四・一四)。そしてヤハウエは、海の水を自分の武器とし、強力な民を重装備の大群から救い出します。もっとも、戦士としての性格がヤハウエの本質なのではありません。ヤハウエは、それが必要な時には戦士となって戦うのです。それはヤハウエが、さすらい弱り果てた者と共にあり、導き、救い出す存在だからです(創一八・一五)。

士師記四一五章では、圧倒的な兵力でイスラエルを長年支配していたカナンの王からイスラエルを解放するため、女預言者デボラがバラクに戦いを命じます。兵を召集したバラクに向かってデボラは、「主があなたに先立って行かれた」と言います(士四・一四)。ここでは「主の戦い」の概念的独自性が明らかです。ヤハウエは土地の守り神でもなければ国王の守護神でもなく、ただ自分自身の戦いを先頭に立って導くのです。そして主の民はすべてこの戦いに参加しなければならず、参加をためらう者は呪われるのです(士五・二三)。また、ヤハウエは天上で他の神々と戦うのではなく、地上の歴史世界で現実の国や人間集団と戦うのです。古代イスラエルの表象世界では、ヤハウエはそれぞれが軍人でもある御使い達の戦車隊に囲まれて、自らも戦車を駆っていると思像されました(詩八八・一八)。御使いは天体でもあるので、天体が軌道からはずれて戦いに参加したため、天変地異が起こって川が氾濫し、敵の大戦車隊を押し流した、という訳です(士五・二〇一―二一)。

従って「主の戦い」は、人間の兵力や武力によりません。「いながらのように」数多いミディアンの大軍に戦いを挑むギデオンに対して、ヤハウエはたった三百人しか兵士として連れて行くことを許しませんでした。それは、勝利した後で傲慢にも自分達の力で勝ったと思うことのないためです(士七・一―七)。また、先程のダビデの箇所では、訓練された軍人で完全武装のゴリアトに対してダビデは普段の羊飼いの姿で立ち向かい、石投げ紐と石一つで勝利を収めました。ここでは、ダビデの口に託して「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされない」という確信が表

明されています。この「主の戦い」の概念を徹底して非武装非同盟の思想にしたのは、前八世紀後半のユダ王国の預言者イザヤです。彼は、アラムと北イスラエルの同盟軍の脅威にうろたえて大国アッシリアに援助を頼もうとするアハズ王に反対します。「落ち着いて、静かにしていなさい」という託宣(イザヤ七・四)は、先程の「葦の海」のモーセの言葉と似ています。その後、強大化したアッシリアの支配から脱するためにユダ王国がエジプトとの同盟を企てるに及んで、イザヤはそれにも厳しく反対します。「災いだ、助けを求めエジプトに下り／馬を支えとする者は。／彼らは戦車の数が多く／騎兵の数がおびただしいことを頼りとし／イスラエルの聖なる方を仰がず／主を尋ね求めようとしない」(イザヤ三一・一)。イザヤは、軍事拡張競争を次のように辛辣に批判しています。「お前たちは言った、『そうしてはいられない、馬に乗って逃げよう』と。それゆえ、お前たちは逃げなければならぬ。また『速い馬に乗ろう』と言ったゆえにあなたたちを追う者は速いであろう」(イザヤ三〇・一六)。それでは他国の軍事的脅威に対しては、どうすればいいのでしょうか。ここでもやはりイザヤの告知は、「立ち帰って静かにしている」ことです(イザヤ二〇・一五)。なぜならヤハウエ自らが地上で戦い、母鳥のように翼を広げてかばい、救うからです(イザヤ三一・四―五)。その結果どんなに強大な帝国も、時が至れば「人間のものではない剣」によって滅ぼされるのです(イザヤ三一・八)。

このイザヤの思想が新たな形で展開されながら引き継がれているのは、ダニエル書です。ダニエル書二章では、歴史上ユダを支配した諸帝国が、王の夢の中で金と銀と青銅と鉄と陶土で出来た像に象徴化されて出て来ます。この像は、「人出によらずに切り出された石」によって打ち砕かれ、跡形もなくなってしまうのです。そして石は大きな山となり、全地に広がります。七章と八章でも同趣旨のテーマが異なった象徴で語られ、ユダヤ人を迫害する王は「人の手によらずに滅ぼされる」(八・二五)と告げられます。こうしてダニエル書は、迫害に苦しむ人々に、最後まで耐え忍んで時を待つよう勧めているのです。(本稿は、当日の話しの一部に加筆したものです)

人生を変える力



アメリカ 合同メソジスト教会宣教師
青山学院大学 宗教主任

シュー・ポール

私なぜクリスチャンになったのか、それを一言で言えば、「神が本当に存在しているのだ」ということを発見したからです。その発見は、私の人生を動かす原動力、そして「生きる目的」を発見することにもなりました。

◆ 小さい頃から、キリスト教は神話や道徳的なことを教えるつまらないものであり、自分には必要ないものであると感じていました。中学生の頃から、私の毎日の生活は荒れたものになり、一般に言う「不良」のグループと一緒に

と出会ったのです。

◆ 私たちは毎日の生活の中で、根底にある何かを「原動力」として行動しています。神は、私たち一人一人をそれぞれの目的のために創られ、そしてその「目的」に向かうことが、私たちの毎日の生活の「原動力」になることを望まれているのです。多くの人は、「成功」して欲しい物を手に入れさえすれば、幸せになるだろうと考えて頑張ります。しかし「成功」そのものは、真実で長続きする満足をもたらしてはくれません。私たちが満足させるためには「成功」以上のものが必要なのです。

◆ このような満足は、生き甲斐のある人生の中で与えられるのであり、私たちが「目的」のために生きていく時に得るものです。これが、生きる理由、生きる意味を知り、その

目的に向かっていく生活なのです。神に信頼する時、自分の存在の意味と歩むべき方向が示されます。神は一人一人に異なった目的・計画を持っているからです。皆さんも、それぞれに与えられた自分の目的を見つけることで、生き甲斐のある人生に向かうことができるのです。

◆ 聖書は、私たちの人生の目的について多くを語っています。この「目的」を知って、それを「原動力」として生きる人生を送る時、様々な利益があります。牧師である *Roy Warren* は、多くの出版物を通して人生の目的について記述しています。その中で、目的に動かされる人生が与える主な3つの利益は、一、日々の生活のフラストレーションを減らす、二、高い意欲を与える、三、焦点のある人生を与

える、ということであると示しています。

◆ 改めて時間をとり、自分の人生の目的について考えたことのある人は少ないでしょう。しかし多くの人が、何か意味のあるもの、永続する喜びや心の奥底を満たしてくれる何かを求めているのです。私たちは、自分の生活を動かす力「原動力」が何であるかに気づかなくてはなりません。また、人生には、神からの目的が与えられているという事が自覚しなくてはなりません。しかし、最も大切なことはキリストに結ばれる事です。最高の人生、最も意味のある人生、本当の意味で生き甲斐のある人生を送るためには、その人生の目的を最初に創った神と結ばれる必要があるのです。



ことばを文字に

聖書翻訳宣教師

日本フリーメソジスト教会南仙台教会信徒

虎川 清子

世界には六千を超える言語がありますが、そのうち聖書が翻訳されていないものが、まだ二千七百語余り残されています。それらの多くは、アジア、アフリカ、太平洋の島々にあり、文字を持たない場合が多いのです。

「信仰はキリストの言葉を聞くことによって始まる」とありますが、聖書が母語としてまだ文字となっていない場合、福音を聞いて正しく理解

したとしても、多くの人々に時間を超えて伝えられ、変わずに残ることは困難です。ウィクリフ聖書翻訳という働きは、十四世紀に初めて母語である英語に翻訳したイギリスのジョン・ウィクリフに名前の由来があり二十世紀にアメリカで始まりました。カメルーン・タウンセントという青年が友人とメキシコのカチケル族に国語のスペイン語の聖書を配布していた時、「なぜ、神は我々の言葉で話しかけてくれないのか？」と言われ、母語で聖書を翻訳して福音を届ける働きが必要と受けとめたのです。翻訳されても読めない役に立たないので識字教育が必要、また、翻訳者や識字教育者を支える人々が必要で、働きはこれらの人々のチームワークによってなされています。

言語を調査し、聖書翻訳の必要があると判定されたら、その村に行って住み、言葉を聞き、音声記号で書きとめ、

分析し、文字（アルファベット）を作り、辞書と読み書きの教科書を作成し、人々に教えながら協力を得て聖書翻訳を始めます。そのためには、言語学、文化人類学、翻訳と識字教育の理論と実際を学び、遠隔地での生活に必要な訓練を受けます。

聖書翻訳は、神と人との間をつなぐ橋をかける仕事でもあります。大学一年の時、伝えたいことがつながらないもどかしさを覚えていた者が、キリストに出会い、従うようになってすぐの時に、この働きの事を知り、興味を持ちました。支える側として関わっていました。就職して六年たった時、この働きのために体力、能力、信仰共に不十分であっても、主に委ねるなら、主が成し遂げて下さるといふ詩篇の言葉により決心し、学びと訓練に歩を進めました。

アメリカでの学び、メキシコでの実地訓練の後、フィリピンに導かれ、ルソン島北部

のカリンガ族の村に遣わされ、フィリピン人のパートナーと共に、ルカと使徒の働きを翻訳しました。その語、私はバリーグ語プロジェクトに移り、今年四月に新約聖書の完成をみる事ができました。

翻訳は釈義をし、村の協力者と共に初稿を作り、他の人に読んでもらって理解度を調べ調整した後、英語に直訳してコンサルタントに提出し、その審査後、再調整し、話し合いの後、最終調整して印刷に回ります。正しくわかりやすく、自然に、首尾一貫して訳すのが原則です。

ことばが文字になり、神のことば聖書が母語で読まれるようになる、人々の心が動かされ、生活に変化が生まれてきます。二十年近くを経て新約聖書が完成し、人々の手に渡り読まれ始めています。聖書は信仰の始まりであり、信仰が深まり強められる手段でもあります。

秋季特別 説教者紹介 伝道礼拝

◆シュール・ポール先生

一九六九年アメリカ生まれ。

Falham College 卒業後、Harvard

University Divinity School 修士

課程修了。

アメリカの教会で協力牧師、

副牧師等を経て、二〇〇一年から

日本基督教団大森めぐみ教会

協力牧師、二〇〇四年から青山

学院大学宗教主任。

【シュール・ポール先生には、一

〇月六日に多賀城、土樋（夜）

の礼拝を担当していただきました

た】

◆虎川 清子先生

一九四七年生まれ。津田塾大

学卒業。

宮城学院中学・高等学校教員

を経てテキサス大学で言語学を

マニラの言語学校でタガログ語

を学び、一九八〇年からフィリ

ピンのルソン島で聖書翻訳活動

に参加し、二〇〇四年バリーグ

語新約聖書の翻訳完成。

聖書翻訳宣教師、日本フリー

メソジスト教会南仙台教会信徒。

【虎川清子先生には、一〇月五

日に泉、六日に土樋（昼）の礼

拝を担当していただきました】

泉キャンパス



長 副 部 長
義之 永井

夏休みを終え、キャンパスも賑わいを取り戻してきました。今年の夏は猛暑に台風という自然の力に圧倒された夏でした。皆さんの状況はどうだったでしょうか。近年の自然災害が異常さを増しているのは、歴史的にみると近代以降の人口爆発と環境破壊にあるとの警告があります。

確かに人類は近代以降、急速にあらゆる面で発展してきましたことは事実です。しかし、大きくみると人間の生き方の基本的部分は変わらな

いのみか、何の進歩もなかったのではないかとさえ思えるのです。人間の愛憎、善と悪、平和と戦争等々、相変わらず人間を悩ましている問題は依然として同じ問題です。古典中の古典といわれ、本の中の本 (the Book) といわれる聖書をひもとき、秋の夜長をすごすのはいかがでしょうか。

土樋キャンパス



長 副 部 長
尚彰 原口

九月より始まった土樋キャンパスの後期の歩みも次第に本格化してきました。三年前の九・一一事件以降、世界中にテロリズムと報復攻撃の悪循環が生まれる一方、超大国による先制攻撃による戦争がまかり通る好戦的な世界となりました。このような時こそ、私達はキ

リストの平和に立ち返り、平和を創り出す者となりた

聖書が説く真理を静かに見つめ、実践する者となりた

宗教部は、毎日の礼拝や毎週の聖書研究等、聖書を学ぶ場を提供しています。

各キャンパスのメッセージ

毎日の学業に就職活動に忙しい毎日ですが、神の前に祈り、日々の糧となる聖書の言葉に耳を傾ける時間こそが、私達の心を整え、自分が為すべきことと為すべきでないことを見分ける目を与えてくれるのです。

多賀城キャンパス



長 副 部 長
野村 信

暑かった夏も過ぎ去り、秋、そして冬への準備を始める時となりました。自然に恵まれた多賀城キャンパスの周囲は、季節の変化を良く映し出してくれます。

今は、収穫の秋であると同時に、思索の秋でもあると思います。それぞれの取り組みべき課題に情熱をもって取り組んでください。

さて、二十一世紀を迎えて、私たちの取り巻く環境は、新しい課題に直面しています。二十世紀に華やかな発展を遂げた科学技術と日本の経済も、今、新たに模索が始まり、様々な事柄が

再検討を求められ、また新しい視野が要求されています。しかし、一方で、人間にとって、基本的に大切なものも、もう一度、再確認し、継承していく時であります。すなわち、変えるべきものと変えてはならないものを確認するということでしょうか。

大学は、変えてはならないものとして、聖書の教えに立って、人間と世界、さらに未来を見つめるように教えています。この視点を大事にして、新たな可能性を探る歩みをしたいのだと思います。


הקחה תורה ונבחרה ונשפך על פני תהום ונחת אלהים מן
הקנים: 3 וְנִאמְרוּ אֱלֹהִים יְהוָה אֱלֹהֵינוּ וְהוֹדוּ אֱלֹהֵינוּ: 4 וְנִרְאָה
הַאֵדָר כִּי־יָסֹבֵב וְנִבְרַל אֱלֹהִים בֵּין הָאָדָר וּבֵין הַחַשְׁשׁ
אֱלֹהִים: 5 וְלֹאֵדָר אִם וְלֹאֵשֶׁף קָרָא לְלֵלָה וְהוֹדוּ עֲרֵב הָהָר
מִהָרָה: 6 וְנִאמְרוּ אֱלֹהִים יְהוָה קָרָע בְּתוֹךְ הַמָּיִם
בֵּין מַיִם לְמַיִם: 7 וְנִעַשׂ אֱלֹהִים אֶת־הַקָּרָע וְנִבְרַל בֵּין
מִסַּחֵת לְקָרָע וּבֵין הַמָּיִם אֲשֶׁר מֵעַל לְקָרָע וְהוֹדוּ בֵּין
אֱלֹהִים לְקָרָע שְׁמַיִם וְהוֹדוּ עֲרֵב וְהוֹדוּ בְּקֶדֶם יְהוָה: 8
וְנִאמְרוּ אֱלֹהִים יְהוָה הַמָּיִם מִסַּחֵת הַשְּׁמַיִם אֶל־מִקְוֵים: 9
וְנִבְרַשׁה וְהוֹדוּ בֵּין: 10 וְקָרָא אֱלֹהִים לְלִבְשָׁה אֶרֶץ וְלֵךְ
קָרָא יַמִּים וְנִרְאָה אֱלֹהִים כִּי־יָסֹבֵב: 11 וְנִאמְרוּ אֱלֹהִים יְהוָה
יִשָּׂא עֲשֵׁב מִזֵּרֵעַ זֵרַע עֵץ פְּרִי עֵשֶׂה פְּרִי לְמִנְיָ: 12

キリスト教 Q & A

1 Ἡ ἀρχὴ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος
καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος. 2 οὗτος ἦν ἐν
3 πάντα δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ χωρὶς
ἐν. ὁ γέγονεν. 4 ἐν αὐτῷ ζωὴ
φῶς τῶν ἀνθρώπων. 5 καὶ τὸ φῶς
καὶ ἡ σκοτία αὐτὸ οὐ κατέλαβεν.
6 Ἐγένετο ἄνθρωπος ἐπεσταλμὸς
αὐτῷ Ἰωάννης. 7 οὗτος ἦλθεν ἐκ
τηρῆση περὶ τοῦ φωτός, ἵνα πάντες
8 οὐκ ἦν ἐκεῖνος τὸ φῶς, ἀλλ' ἵνα
φωτός. 9 Ἦν τὸ φῶς τὸ ἀληθινὸν
ἄνθρωπον, ἐρχόμενον εἰς τὸν κόσμον,
καὶ ὁ κόσμος δι' αὐτοῦ ἐγένετο
οὐκ ἔγνω. 11 εἰς τὰ ἴδια ἔλλαβεν

今号の「キリスト教Q & A」も、前号に引き続き、一つのテーマ（質問）に対して、三人の先生方にお答えいただきました。今回のテーマ（質問）は、「聴いて欲しい音楽は何ですか？」です。秋も深まってまいりました。食欲の秋、スポーツの秋、そして芸術の秋です。大学で、自宅で、先生方のお勧めする音楽を聴き、日々の忙しい生活で疲れた気持ちや体をゆとりと解きほぐしてみたり、明日への鋭気を養ってみたりしてはいかがでしょうか？

ブラームス
教養学部
雨貝 行磨



『ドイツ・レクイエム』をすすめます。「レクイエム」といいますとモーツァルトや、フォーレといった作曲家の作品がよく知られています。この曲はカトリック教会において、営まれる教会の儀礼の大切なひとつで、「典礼」といいますが、その中でも愛する者を喪って、後に遺された人が、いわば哀悼の意をもつて集うところで、教会が今後も、永遠の、世界の主であるキリストが、人の罪を審き、赦し、購うことを明確に語り、ほめうたうものです。

ブラームスは、福音主義（プロテスタント）でしたので、カトリック教会で営まれている人にとって大切なことを、自分で考えて、いつも読んでいた新約聖書（ドイツ語）の言葉をつづりあわせて、キリストが、私ども人生に、直さいにしみ入るように作曲しています。まるで優れた説教を聞く思

フォーレ
「レクイエム 作品48」
工学部
長島 慎二



いがいたします。フォーレ（二八四五〜一九二四フランス）のレクイエム

は一九世紀宗教音楽の名作とされています。父の死を悼んで作られたと言われ、三つの版が存在します。レクイエムはカトリック教会における死者のためのミサ曲で、典礼文の冒頭が「Requiem（安息を）」であるところからこのように称されます。通常のミサとは異なった構成となっており、フォーレのレクイエムでは、第一曲目の入祭唱とキリエを始めとして全八曲により成り立っています。

キリエ・エレイソン（主よ憐れみたまえ）は、わたしの教会でも開会の部で、悔い改めの心をもって三度唱えられますが、曲中何度も繰り返されるコーラスのユニゾンに聴く者を謙虚にさせます。曲は、奉献唱、サンクトゥス、ソプラノ独唱のピエ・イエズ、アニヌス・デイ、リベラ・メと続き、

クリスマス礼拝 の ご案内

★第16回 泉キャンパスクリスマス

12月3日(金) 18:30~

泉キャンパス礼拝堂

第一部

礼拝

説教者：日本バプテスト連盟
仙台北バプテスト教会

下川 義明牧師

第二部

クリスマスコンサート

オルガン演奏、クリスマス・メドレー演奏、みんなで歌おう、聖歌隊合唱、キャンドルサービス、他

★大学クリスマス

泉キャンパス

12月15日(水) 14:30~

土樋キャンパス

12月15日(水) 18:00~

多賀城キャンパス

12月16日(木) 14:30~

説教者：東京神学大学
教授 大住 雄一先生
オラトリオ「メサイア」合唱

★第55回 公開東北学院クリスマス

12月17日(金) 18:00~

土樋キャンパス礼拝堂

説教者：日本基督教団
富田林教会

原田 浩司牧師

オラトリオ「メサイア」合唱



礼拝音楽

教養学部

今井奈緒子

最後は、出棺の際に歌われる
イン・パラディスム(楽園に
て)で終わります。

大学オルガニストを勤めて
半年が経ちました。まずは身
近なところから：聴いて欲し
いのは、毎朝チャペルに行け
ば必ず奏でられている礼拝の
為の音楽です。

オルガン、聖歌隊、時にジャ
ンルに応じた他の楽器による
こともあるでしょう。説教者
が聖書と讃美歌を選び、奏楽
者はそれに応じた前奏・後奏

曲を準備します。

前奏は礼拝に向かう心を整
え、後奏は人々をそれぞれの
勤めに送り出す役割を持って
います。チャペルに足を踏み
入れたら気持ちを切り替え、
耳を澄まして欲しいのはその
為です。多様な音楽に親しむ
と同時に氾濫する噪音の中に
も暮らす私達にとって、礼拝
の音楽こそ非日常のかも知れ

ません。しかしそれらの作品
は生まれた場所も時代も表情
も様々ながら、礼拝を通して
神と自己に向き合う人々に寄
り添い培われてきた宝の山で
す。

それらを歌い奏でる人も楽
器も、東北学院大学には豊か
に備えられていることを感謝
し、聴く人の心に届く演奏を
目指しています。

編集後記

日によっては肌寒い日も
ありますが季節はだいぶ過
ごしやすくなりました。腰
を据えて何事かを行う絶好
のときです。一年の歩みも
半ばを過ぎた今、次年度に
向けて計画を立て、今何を
なすべきか考えるのも今の
ときを生かす有効な道かも
知れません。

(NA)